

古賀総合病院 広報誌

フィオーレ

KOGETA

Vol.38

2025年1月号



TOPICS

- あいさつ 社会医療法人同心会 古賀総合病院 院長 石川哲憲
- 登録医の紹介 大山脳神経外科クリニック 院長 大山 博司 先生
- 院内ニュース 放射線治療装置の新規導入について
ダビンチ Xiを用いたロボット手術の導入
活動紹介 糖尿病教育運営委員会
関連施設紹介 古賀訪問看護ステーション あおぞら



新年明けましておめでとうございます。旧年中、当院に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。当院では、昨年11月から内視鏡手術支援ロボット(ダビンチ)手術が始動し、12月から高精度放射線治療システム(3Dファントム)も始動致しました。また、年末には漸くホームページのリニューアル公開にたどり着くことができました。地域の皆様により充実した精密な医療を提供し、より多角的な情報発信を継続して行っていけるよう、本年も鋭意努力して参る所存です。

さて、昨年末にはトランプの米大統領選挙圧勝、韓国大統領の戒厳令宣布、シリアのアサド政権崩壊、フランスでの内閣不信任案可決など世界各国でカオスの連鎖ともいえる事態が巻き起こりました。政情不安に対する危機感の高まる中、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の代表の一人、田中熙巳さんのスピーチに胸を打たれた方も多かったのではないかと思います。特に心に残ったのは「想像してみてください。直ちに発射できる核弾頭が4000発もあるということ。広島や長崎で起こったことの数百倍、数千倍の被害が直ちに現出することがあるということ。」という言葉でした。御年92歳になられる方に、人間としての基本的な想像力の欠如を指摘されねばならないような、今の世界の人々の無関心さ、問題意識の低さが根底にあります。我々医療関係者にとりましても、想像力は大切なキーワードの一つです。患者さんやそのご家族はもちろん、職員の皆さんや地域の医療施設の皆さん、そして地域の住民や自治体関係者の皆さんが何を大切に、当院に何を期待されているのか、常に想像力を働かせながら日々の診療に取り組んでいきたいと考えております。

加速する少子高齢化と自治体人口減少のトレンドは留まるところを知らず、地方の医師不足および医師偏在の問題も解決の糸口が未だ見えない状態です。これらの問題はこれからの地域医療と病院経営を考える上で最も重要なファクターであり、死活問題であると考えられます。これからは組織における人材を、管理する対象としての「資源」という考え方から、価値を創造する投資の対象となる「資本」と捉え、人材の価値を最大限に引き上げることで中長期的に企業価値を向上させていく経営のあり方が重要であると言われております。いわゆる人的資本経営を実践するためには、①医療スタッフをコストと見なさず自院に価値を齎す「人財」と考えること、②中長期的な医療機関全体の経営戦略を立て、それに紐づいた人事戦略を策定すること、③経営層と医療スタッフの対話の機会を設けること、④スタッフに自律的な学びの機会を与え成長を促すこと、⑤能力に応じた客観的な評価を行い、多様性を認めるオープンな組織をめざすことが必要です。また、倫理資本主義という考え方も重要で、倫理的価値の優先、持続可能な成長、ステークホルダー資本主義、価値基盤の革新などがポイントとしてあげられます。

いわゆる団塊の世代が全て75歳以上となる「2025年問題」と言われていた区切りの年がついに現実のものとしてやってきました。医療需要と供給のバランスの崩壊という事態を招かないよう、我々にできることを一つ一つ積み重ねて、長く険しい航路を乗り越えていきたいと思っております。

本年もご指導ご支援を何卒宜しくお願い致します。

大山脳神経外科クリニック

〒889-1411

宮崎県児湯郡新富町富田1丁目3-2

TEL：0983-26-8111

診療科目

脳神経内科・脳神経外科・精神科・
心療内科・リハビリテーション科



院長 大山博司 先生

当院は、2003年6月に10号線を挟んで、新富町役場前に開業し、今年で22年目を迎えます。院長である私は長崎市出身で、平成元年に鹿児島大学を卒業し脳神経外科に入局しました。在局中は、鹿児島県内の各施設をはじめ、南は奄美大島から北は静岡県富士宮市まで飛び回り、宮崎へは金丸脳神経外科病院に、1990年（研修医）、1993年、そして1996年（専門医取得後）と三度赴任し、指導して頂きました。その後紆余曲折を経て、2001年大学を退局後、2年間の精神科研修を行い、郡部での脳神経医療に少しでも貢献出来ればと、現在に至っています。研修医時代に習得した東洋医学も交えながら、脳卒中、関連する生活習慣病（高血圧症・脂質異常症・糖尿病等）を始め、脳ドック・パーキンソン病等や頭痛・肩こり・めまい・しびれ、認知症、うつ病、不安障害等に従事しています。が、ご存じのように地域医療ともなると、専門科のみならず、あらゆる疾患に対応していく必要があります。開業当初から、脳神経内科の鶴田和仁先生、内分泌科の栗林忠信先生には数多くの症例をご相談させて頂きました。その後、地域連携室も立ち上げられ、数多の診療科の先生方のご寛容な対応と、優れた的確な診療、フィードバックによるご教示、ご鞭撻により、どれだけの患者さんを救っていただき、また私自身の成長も助けていただいたかわかりません。時代の変遷とともに、社会はもとより、医療・介護環境も多くの難問を抱えてはいますが、今後も力及ぶ限り日々診療に精進する所存ですので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



放射線治療装置の新規導入について

放射線科 放射線治療部長 田中 隆



当院では、放射線治療装置の更新を行い、2024年12月から運用を開始しました。高品質な放射線治療を、患者さんにとってより適切で、負担を低減させた治療環境で行うことができます。最新の放射線治療機器の代表的な機能を有しており、これからの放射線治療適応が拡大されます。

今回の新装置導入により、新しく可能となった放射線治療技術としてIMRT強度変調放射線治療とIGRT画像誘導放射線治療のふたつがあります。

IMRT強度変調放射線治療は、従来法では同一面に単一の強度の照射しかできませんでしたが、同一面でも場所により様々な強度の照射が可能となりました。この方法での照射を、多方面から組み合わせることにより、複雑な形状のターゲットにもよりの確な照射が可能となります。

IGRT画像誘導放射線治療は、画像装置を用いてリアルタイムに位置補正を行う技術です。従来では治療計画作成を行いその計画に基づいて治療をおこなっていましたが、実際に生体内では臓器は動いているものであり、日ごとにわずかながらでもずれが生じます。治療姿勢のずれや体重の増減でもずれが生じます。このずれを補正する技術がIGRTです。例として前立腺は体内で約5ミリ程度のずれが生じるといわれていますがIGRTではそのずれを3Dで補正し、より正確な放射線治療が行えます。

放射線治療は悪性腫瘍を中心に様々な疾患の治療に寄与できる治療法です。近年では放射線治療による根治治療や外科治療、化学療法への支持療法として用いられており、より有効性、安全性が高い治療として普及しつつあります。当病院でも、最新の知見に準じた治療を実践しており、新しい放射線治療装置はその治療に貢献、患者さんによりよい治療を提供する一助となるものと考えます。

宮崎県特有の事情としまして、遠隔地在住のため、放射線治療のための毎日の通院が困難な事例が多くあります。体力的に通院困難、交通手段がないなど様々な事情がありますが、当院ではそのような患者さんに対し入院での治療についても対応いたします。放射線治療期間中が対象となりますが、ご希望に沿うよう努めてまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。



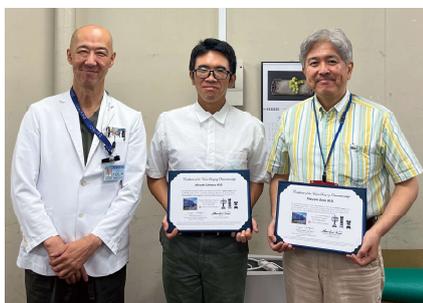
ダビンチ Xi を用いたロボット手術の導入

外科 医長 上原拓明

古賀総合病院外科の上原拓明です。2023年1月に当院へ赴任して約2年が経過しました。今回、da Vinci(ダビンチ)Xiを用いたロボット手術の導入について紹介させていただきます。

①ダビンチ手術の特徴とメリットについて

ダビンチはインテュイティブ・サージカル社が開発、製造、販売した内視鏡手術支援ロボットです。執刀医は数m離れた場所に置かれたサージョンコンソールに座って、3本のアームと1本の3Dカメラを持つペイシェントカート进行操作して精細な手術が可能となります。



②当院での導入の経緯について

2024年現在、泌尿器科、外科、産婦人科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科などの各種領域で、多くのロボット手術術式が保険適用とされています。当院でも2023年下半期よりロボット手術導入のための会議を重ね、2024年8月に理事会での承認の元、購入が決まり、ついに9月下旬にダビンチXiが納品されました。院内手術チームを選出し、9月から10月にかけて虎の門病院、福岡大学病院、NTT東日本関東病院へ手術見学に行きました。手術チームのみならず、手術室内の様々な整備、手術シミュレーション、院内規定の制定、倫理審査、広報、関連事務手続きなど、多職種にわたる多くのメンバーが一致団結して準備を進め、11月に安全な導入を達成致しました。



③今後の展望について

2024年11月 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術

2024年12月 腹腔鏡下直腸切除・切断術

上記術式が安全に導入することが出来ました。

2025年以降、下記術式も環境が整い次第、順次導入を進めて参ります。

腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術

腹腔鏡下肝切除術

腹腔鏡下胃切除・胃全摘術(単純・悪性腫瘍手術)



詳細はホームページをご覧ください。



今後とも、患者さんに優しい低侵襲手術を達成すべく、ロボット手術の安全な導入実施に注力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

初めまして、古賀総合病院の臨床検査技術部の清田です。今回は、同心会で活動している糖尿病教育運営委員会の活動と、11月の世界糖尿病デーに合わせて開催しました【DMウィーク in KOGA】の報告をさせていただきます。

糖尿病教育運営委員会は診療部・薬剤部・看護部・臨床検査技術部・栄養管理部・リハビリテーション技術部の代表者で構成され、日本糖尿病療養指導士(CDEJ)・宮崎地域糖尿病療養指導士(CDEL)の資格を持つメンバーで活動しています。当委員会は『糖尿病教室』『患者会イベント』『研修会』のグループに分かれ活動しています。

『糖尿病教室』は毎週水曜日に入院患者さんを対象とし、「医師による糖尿病の合併症・治療について」「看護師・栄養士による生活・食事療法について」「薬剤師による薬について」「臨床検査技師による検査について」「理学療法士による運動療法について」などの内容でおこなっています。

『患者会イベント』はI型糖尿病患者さんを対象とした「I型糖尿病患者交流会」、II型糖尿病患者さんを対象とした「はまゆう会レクリエーション」の開催を予定しています。

『研修会』は当委員会が主催する糖尿病医療連携の会を12月に開催しました。これらの委員会の活動により、糖尿病患者さんと地域の医療従事者との交流を図ってきました。

【DMウィーク in KOGA】は、11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、今年度は11月11日から11月15日の期間で開催しました。近年、地震などの自然災害が多いため、糖尿病患者さんだけでなく、すべての人を対象に「糖尿病と防災について」をテーマに、院内各所に薬剤部・看護部・臨床検査技術部・栄養管理部・リハビリテーション技術部がそれぞれ作成した内容を掲示し、防災関連の資料の配布、体験コーナー(自己血糖測定・体脂肪測定・相談等)を設けました。

みなさん、「糖尿病と防災」に興味があるようで立ち止まり掲示物を読んでくださる姿をしばしば目にしました。また体験コーナーでの糖尿病についての悩み・相談・質問もいただきました。

当委員会の活動を通して、少しでも糖尿病への興味・関心を持っていただき糖尿病患者さんが少しでも過ごしやすい環境づくりができると幸いです。



古賀訪問看護ステーション「あおぞら」は、古賀総合病院の北側に位置しています。「古賀在宅ケアセンター」の看板が目印の事業所内には、訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所があり、看護師15名（保健師3名含む）、リハビリ8名（PT,OT,ST）、ケアマネジャー2名が在籍しています。病気や障害を持った方が住み慣れた地域やご自宅で安心した生活が送れるよう身体的な疾患や、精神疾患を抱えている方へ訪問しています。



私たちは「その人らしい“生き方”」に寄り添い、地域に選ばれる訪問看護ステーションになる」をビジョンに掲げて、利用者様一人一人の今までの生活スタイルを把握し、好きなこと、やりたいことが実現できるように多職種で連携しながら支援しています。

訪問看護は、看護師やリハビリによる定期訪問に加えて体調不良時には、看護師が24時間体制で緊急訪問を行います。体調悪化が予測される方、介護力が乏しく急な通院ができない方などは、ぜひ訪問看護をご利用ください。感染症の方へも訪問可能です。

令和7年度4月からは、特定行為研修（在宅パッケージ）を修了した看護師が誕生します。医師の手順書に基づいて「気管カニューレ交換」「胃瘻交換」「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」「脱水症状に対する輸液による補正」が行えるようになります。



4月より地域の先生方のタスク・シフト/シェアの一助となれますよう依頼を随時お受けいたします。詳細を確認したい場合は、いつでもご連絡ください。

○ 在宅・慢性期領域パッケージ

特定行為区分	特定行為
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	気管カニューレの交換
ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換
創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	脱水症状に対する輸液による補正

社会医療法人 同心会
 古賀訪問看護ステーション あおぞら
 〒880-0041
 宮崎市池内町数太木1763-3
 電話 0985-39-8127
 FAX 0985-39-9160



理念

「患者さんやご家族に納得していただける医療・介護・福祉サービスを継続して提供します」

基本方針

1. 質の高い組織マネジメントの遂行
2. 設備・環境の改善
3. 職員の資質向上（人材育成）
4. チーム医療の推進
5. 相手の立場に立った目配り・気配り
6. 健全な経営管理

地域医療連携室からのご案内

<今後の研修予定>

◎ 研修のご案内は随時お知らせしてまいります。

* お問い合わせ直通:0985-39-8952 FAX:0985-39-0372 Email:kgh-renkei@kgh.or.jp

* 受付時間:平日 8時30分～17時00分

<ご案内>

◎ 泌尿器科は予約制です。患者さんから病院あてにお気軽にご連絡ください。(※)

古賀総合病院代表:0985-39-8888

◎ 内分泌代謝内科、呼吸器内科は予約制です。

患者さんから内科外来あてにお気軽にご連絡ください。(※)

内科外来直通:0985-39-0412

受付時間:平日 14時00分～17時00分

※ 急患に関してはこの限りではありません。

お知らせ

日頃より、当院のホームページをご利用いただき、誠にありがとうございます。
ございます。

このたび、当院の取り組みをよりわかりやすくお伝えするために、
2024年12月13日(金)にホームページをリニューアルいたしました。

最新情報はこちらに随時アップし、今後もサービス改善、ページ内
容の充実に努めてまいります。

引き続き、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

[ホームページはこちら](#)



関連施設

【フィオーレ KOGA 看護専門学校】

〒880-0879 宮崎市宮崎駅東2丁目2-10

TEL 0985-38-8010 FAX 0985-38-8020

【介護老人保健施設 春草苑】

〒880-0041 宮崎市池内町数太木 1749-1

TEL 0985-39-8899 FAX 0985-39-8978

【フィオーレ KOGA】

〒880-0812 宮崎市高千穂通 2-7-14

・古賀駅前クリニック(1F)

TEL 0985-22-2111 FAX 0985-23-9598

・古賀駅前クリニック健診センター(2F)

TEL 0985-22-2112 FAX 0985-32-0317

・メディカルフィットネスフィオーレ(3F)

TEL 0985-22-2113 FAX 0985-22-2791

・鍼灸院フィオーレ(1F)

TEL 0985-22-8950

【古賀在宅ケアセンター】

〒880-0041 宮崎市池内町数太木 1763-3

・古賀訪問看護ステーション あおぞら

TEL 0985-39-8127 FAX 0985-39-9160

・居宅介護支援事業所 古賀ケアプランセンター

TEL 0985-39-9150 FAX 0985-39-9160

発行元：古賀総合病院 庶務課 2025年1月発行

〒880-0041 宮崎県宮崎市池内町数太木 1749-1

TEL 0985-39-8888 FAX 0985-39-0067

E-mail info@kgh.or.jp